

令和5年度
宮城県障害者芸術文化活動支援業務
報告書
(ウェブサイト公開用)

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

■東北事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 4-1-50

tel:070-5328-4208 fax:022-774-1576

mail:soup@ableart.org URL: soup.ableart.org

■東京事務局(法人本部)

108-0074

東京都港区高輪 2-15-24 三愛ビル竹館 2階 203号室

tel: 03-6277-2802

令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務

1 業務目的

多様な価値を尊重し、他者との相互理解を進めるという機能を有する芸術文化に障害者が取り組むことは、障害者の自立や社会参加を促進する上で、重要な活動の一つである。本事業は、さまざまな障害者が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるよう、地域における障害者の芸術文化活動(以下「芸術文化活動」という。)を支援し、障害者の自立と社会参加を促進することを目的とする。

2 対象分野

宮城県内の自宅、学校、福祉施設、文化施設、社会教育施設、民間の教室等、地域の多様な場で行われる、美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動に対して支援を行った。

3 業務内容

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、福祉施設、文化施設、支援団体等(以下「事業所等」という。)を支援する拠点「障害者芸術文化活動支援センター」(以下「支援センター」という。)を設置し、「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」(平成31年3月文部科学省・厚生労働省策定。以下「障害者文化芸術活動推進基本計画」という。)ならびに第2期「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」(令和5年3月策定)に定める施策の方向性を踏まえ、実施した。

(1)相談支援

■相談窓口の設置(通年)

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、福祉事業所や地域のアトリエなどで障害者の芸術文化活動を実施する人たちからの相談に対し、次の方法・体制・内容・方法で対応した。

□相談の方法	(i)電話、FAX、メール、対面でのヒアリング (ii)研修会および展示会における相談受付
□相談の体制 (人員・勤務)	・東北事務局4人(常勤3/非常勤1)、東京事務局1人(常勤1) ・月～金の10時～18時を受付時間とする。窓口担当が不在時は、相談者の連絡先をきき、担当者が折り返し連絡し対応。
□相談の範囲と 対応時の連携	・支援方法、創作環境の整備、権利の保護、鑑賞支援、作品の販売・公演、記録・保存、地域・国際交流等に関する相談。 ・相談への対応にあたっては、必要に応じて専門家アドバイザーを活用し、関係機関や専門家の紹介や専門的知見によりアドバイス等を実施。

相談者	宮城県内のべ96個人/団体、宮城県外のべ81個人/団体 合計177個人/団体
相談件数	相談件数177件(前年度139件/前年度比126%) 相談回数558回(前年度736件/前年度比75%) ※相談件数 寄せられた相談につき1件とカウント ※相談回数 電話やメールなど、相談対応ごとに1回とカウント

特記	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の属性は、例年通り、障害者本人や家族からの問い合わせが多い。また、文化芸術活動や生涯学習活動の情報を求めてくる人も多かった。 ・所在地が、商業ビルの中に入ったことで、対面での対応が増えた。 ・権利保護については、福祉施設からの問い合わせが増えており、二次利用や販売に関することが多い。中には、二次利用のトラブルに関する事例もあった。 ・令和4年度に続き、文化施設の相談件数が増えている。これは令和2年度から法人本部である東京事務局を中心に取り組むミュージアム・アクセス事業(文化庁委託)で相談支援に力を入れたことが背景にある。東北事務局では、仙台市市民文化事業団音楽振興課の仙台クラシックフェスティバルのプレ企画「せんくら・リラックス・コンサート」運営協力、仙台市博物館のワークショップの開発協力など、障害のある人の社会教育施設への参加を促すための人材育成につとめた。 ・令和5年度から始まった「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」(宮城県教育委員会)との連携で、県内の社会福祉施設からの相談が増えた。
----	--

■相談データ(実績:令和6年3月31日時点)

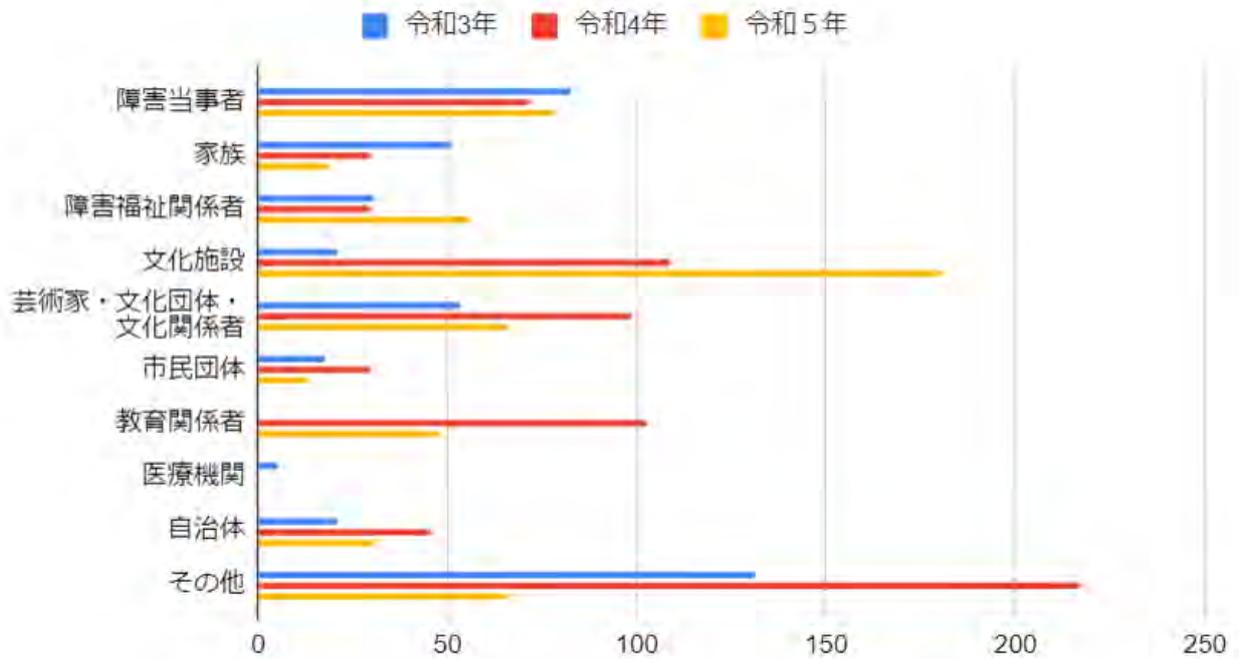
* 詳細は別紙1(相談件数) (公開しない)

全国連携事務局より示された全国統一のカウント方法に準じる。

□相談者属性と相談回数

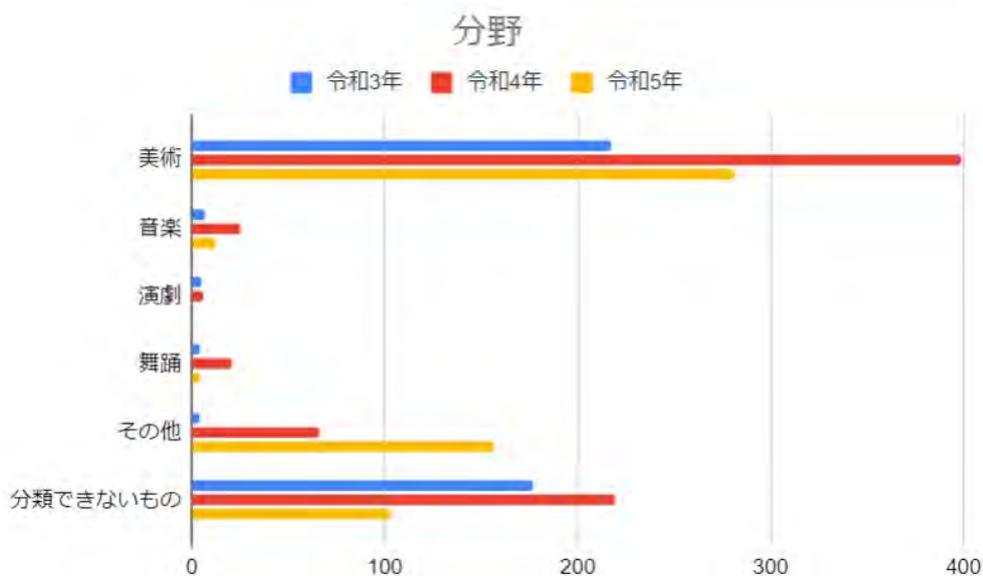
項目	令和3年	令和4年	令和5年
障害当事者	83	72	78
家族	51	30	19
障害福祉関係者(障害福祉サービス事業者、当事者団体等)	31	30	56
文化施設(美術館、博物館、劇場、ホール、ギャラリー等)	21	109	181
芸術家・文化団体・文化関係者	54	99	66
市民団体(サークル、クラブ活動等)	18	30	13
教育関係者	0	103	48
医療機関	5	0	0
自治体	21	46	31
その他(企業、報道機関、等)	131	217	66
	415	736	558

相談者属性と相談回数



□分野

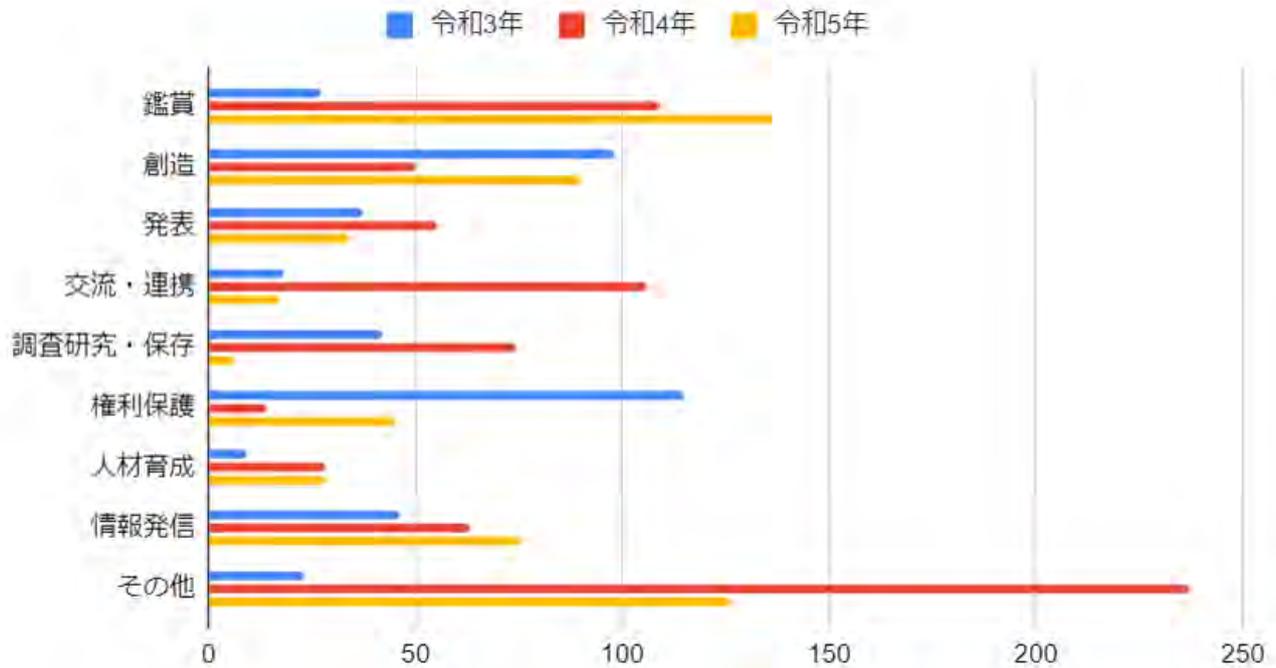
項目	令和3年	令和4年	令和5年
美術	218	399	281
音楽	7	25	12
演劇	5	6	4
舞踊	4	21	0
その他(メディア芸術など)	4	66	158
分類できないもの	177	219	103
	415	736	558



□相談内容種別

項目	令和3年	令和4年	令和5年
鑑賞(鑑賞機会、鑑賞支援等)	27	109	136
創造(創作環境、支援方法等)	98	50	90
発表(発表したい、開催したい、依頼された)	37	55	34
交流・連携(ネットワークづくりなど)	18	106	17
調査研究・保存(作品の保存に関することなど)	42	74	6
権利保護(出展依頼したい・された、二次利用・商品化、販売、寄託・寄贈、作品の取扱全般、成年後見制度等)	115	14	45
人材育成(研修等の情報、講師についてなど)	9	28	28
情報発信(取材、広報、見学)	46	63	76
その他	23	237	126
	415	736	558

相談内容種別



(2) 芸術文化活動を支援する人材の育成等

* 詳細は別紙2-1、-2、3([研修レポート1](#)、[研修レポート2](#)、[研修レポート3](#))

令和4年度の報告書に記載された課題・特記をもとにプログラムを作成した。

- 公募展や相談で増えている、漫画・デジタルアートに関する研修: 1回
- 障害者の芸術文化への参加に関連し、すそ野拡大をめざして「広域大崎圏」で実施するワークショップ等: 1回
- 支援センターの相談が極端に少ない「音楽・演劇・舞踏」に関する領域のフォーラム: 1回

* 遠方在住や肢体不自由、在宅生活の会場に来ることが難しい人のために、一部の研修をオンライン配信のハイブリッド型にて実施。

* 「音楽・演劇・舞踏」に関する領域の活動は、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業との連携事業として実施。

内容	日程・会場	講師、案内役等	参加者数	参加者所属等 ★印は SOUP の研修初参加
第1回 「障害のある人とデジタルアート」	2023/10/19 エイブル・アート・ ジャパン東北事 務局 & オンライン	講師：村上渉（宮 城教育大学大学院 教育学研究科 高度教職実践専 攻 特別支援・子 ども支援プログラ ム）	会場 15 人 オンライン 8 人	一般社団法人アートインクルー ジョン、manaby CREATORS 仙 台、ソーシャルビレッジ仙台、 NPO 法人ワンダーアート、★己 達会 rise、★ぽけつとの会、★ はるのひ文庫、★TEXT、エイブ ルアート・カンパニー、★障害児 の家族2組
第2回 出張創作室「オ ープンアトリエ」	2023/10/28 伊豆沼・内沼サ ンクチュアリセン ター	主催：宮城県立 美術館、共催：栗 原市教育委員会	参加者3人、付 添1人	★くりこま「ゆめ工房」
第3回 「障害のある人と つくるパフォーミ ングアーツ研究 会」	2024/1/28 せんだいメディア テーク1階オープ ンスクエア	ゲスト：渋谷裕子 （さぐる・おどる企 画）、工藤夏海 （美術家、人形劇 団ポンコレラ、で もトラ！）、及川 多香子（NPO 法 人アートワークシ ョップすんぷち よ）、菊地将晃 （特定非営利活 動法人明日のた ね）、伊地知裕子 （クリエイティブ・ アート実行委員 会プロデューサ ー）	会場 23 人 オンライン 1 人	NPO 法人アートワークショップ すんぷちよ、公益財団法人宮城 県文化振興財団、★NPO 法人 ドネルモ、宮城県障害福祉課、 公益財団法人仙台市市民文化 事業団ほか

【特記】https://soup.ableart.org/program/2023-2/soupkensyu2023/report_performingartskenkyukai/

- 第1回、障害者福祉施設や個人からデジタルアートに関する研修のニーズを受けて開催した。支援者だけでなく、障害のある作家本人の参加もあった。
- 第2回は、宮城県美術館の主催事業であるオープンアトリエを活用し、アートスタートの機会を求め
る福祉事業所に伴走するかたちで研修を行った。
- その他
 - 2023/9/12 芸術文化活動に取り組む障害者福祉施設のぞみ福祉作業所（南三陸町）の依
頼で、施設を訪問し、支援員を対象に知的財産権についての研修を開催。
 - 2023/11/4「ハートフルデイキャンプ2」（クラフト活動、主催：みやぎ県民文化創造の祭典実
行委員会（芸術銀河））
 - 2023/11/11「ひが葉のまんがをかいてみよう！講座」（主催：塩竈市教育委員会）
 - 2023/11/19「みんなの音楽祭 in 松岩公民館」（主催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委
員会（芸術銀河））

(3)関係者のネットワークづくり

■研修との連携や新たなネットワーク形成

芸術文化活動を支える人材が連携・協力し、多角的な面から支援の在り方が考えられるよう、障害者やその家族、福祉や芸術等の専門家、事業所や文化施設の職員、文化、福祉、まちづくり等の行政職員、教育関係者、研究者、地域住民など、分野や領域を超えてさまざまな関係者とネットワークを築いた。また、ネットワークを通じ、事業についての意見交換や情報共有、芸術文化活動の質の向上などに務め、事業の実施に必要な協力を得た。

【地域格差の解消に向けた取り組み】

令和2年度の会議で、ネットワークの空白地域として「広域大崎圏」「広域仙台都市圏域/北部・東部」があげられた。そのため、令和3年度から意識的に「広域大崎圏」「広域仙台都市圏域/北部・東部」地域を研修の実施地域に設定し、活動の広報や顔のみえる関係づくりに注力した。

「広域大崎圏」では、宮城県美術館と障害者福祉施設と連携して研修に至った。宮城県生涯学習課に協力し、気仙沼市で市内の公民館や社会福祉法人と連携して音楽祭を開催したり、塩竈市で塩竈市生涯学習課の漫画講座に協力したり、東松島市では松島自然の家と連携してクラフト活動を企画したりした。連携組織:くりこま「ゆめ工房」(栗原市)、宮城県美術館、松岩公民館(気仙沼市)、社会福祉法人洗心会(気仙沼市)、塩竈市生涯学習課/生活福祉課、宮城松島自然の家

【文化芸術団体との協働の促進】

令和4年度に続き、文化芸術団体側が、障害者の参加・アクセスの権利と実践について学び動きだしている。

- ・宮城県消費・生活文化課と「芸術銀河」を通じてアウトリーチ活動に取り組んだ。松岩公民館(気仙沼市)での音楽会、松島自然の家(東松島市)でのクラフト活動、障害と芸術文化の大見本市(会場:せんだいメディアテーク)での美術ワークショップなど、3種類の活動を実施した。
- ・宮城県芸術文化振興財団とは令和6年度に向けて協議を行い、当事者とのアクセシビリティ調査(8月)、実演家および管理者向けリラクソコンサートを実施する計画までこぎつけた(2024年12月開催予定)。
- ・仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会委員として計画の策定に携わった。障害者の芸術活動が促進されるための要件について具体的な発言をした。
- ・仙台市博物館とは、知的障害児者を対象にして屏風絵を鑑賞する、ミニ屏風をつくるワークショップの検証で協働した。当事者、専門家を紹介しインクルーシブ型の研修会を実施することができた。
- ・仙台市市民文化事業団の依頼で、助成団体・個人を対象にしたインクルーシブな場をつくるための勉強会を実施する計画に至った(2024年7月開催予定)。

【生涯学習としての協働の促進】

障害のある人が日常的にかつ生涯を通じて参加することができる生涯学習の政策も推進されている。そのなかのひとつとして「芸術文化活動」を広げていくために、支援センターを運営する法人としても積極的に活動している。

令和5年度から宮城県生涯学習課が障害者の生涯学習に関連して「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」連携コンソーシアム事務局を立ち上げた。【地域格差の解消に向けた取り組み】に書いたとおり、空白地域に生涯学習を広げる取り組みに協力した。

連携組織:宮城県生涯学習課、仙台市生涯学習課、仙台市生涯学習支援センターほか。

■令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務/協力委員会(以下、宮城県協力委員会)の実施

日時:2023年9月26日 14:00-16:00

会場:宮城県庁1階 みやぎ広報室

仙台市および宮城県の障害のある人の福祉・文化芸術・教育などの関係者が集まり情報交換を行うもの。国の施策の確認をしながら、各団体からも活動や問題意識を語っていただき情報共有を行った。加えて、「第6回障害と芸術文化の大見本市」(2024年1月27-31日)に向けた広報の連携依頼を行った。

【出席者・所属一覧】

- 宮城県特別支援教育課企画管理班
- 宮城県教育庁生涯学習課生涯学習企画振興班
- 宮城県教育庁生涯学習課社会教育支援班
- 宮城県環境生活部消費生活・文化課文化振興班
- 宮城県美術館教育普及部
- 仙台市健康福祉局障害福祉部障害企画課社会参加係
- 仙台市教育局学校教育部特別支援教育課
- 仙台市教育局生涯学習部生涯学習課企画係
- 仙台市教育局生涯学習支援センター事業係
- 仙台市文化観光局文化スポーツ部文化振興課文化振興係
- 公益財団法人宮城県文化振興財団事業課企画係
- 公益財団法人仙台市市民文化事業団総務課企画調整係
- みやぎ NPO プラザ館長
- 特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター
- 宮城県障害福祉課地域生活支援班

■その他のネットワーク、情報交換等

- 相談のうち、精神障害の人が参加できるオープンアトリエは資源が少ないため、結果的に、「アトリエつくるて」に参加する事例などが複数あった。
- 「アトリエつくるて」と「みんなでつくるよ広場の人形劇！」(公益財団法人仙台市市民文化事業団／2023年度持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業)の参加者(家族等)に、本事業の研修等の情報提供を行った。
- 大和リース株式会社からの依頼で、運営している商業施設(ランチ仙台)の合理的配慮の調査と、合理的配慮の研修会を行った。なお、調査および研修会には、障害当事者(聴覚障害、視覚障害、発達障害、精神障害)を招いて行った。
- 障害者の生涯学習事業(共催:仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク)における年3回の連携協議会にて、本事業の情報を共有した。連携協議会の構成団体は、仙台市生涯学習課、仙台市特別支援教育課、仙台市障害企画課、東北大学、みやぎ生協、仙台市市民活動サポートセンター等。また、生涯学習事業の参加者である障害のある人たちやボランティアにも、年5回のワークショップ/講座、年1回の成果発表会とコンファレンスを通じて本事業を共有した。他に、仙台市の特別支援コーディネーターに向けた研修に向けて作成した動画内や仙台市自立支援協議会での活動紹介においても、本事業を共有した。

(4)発表の機会の確保

* 詳細は別紙3(第6回「きいて、みて、して、見本市」アンケート結果)(公開しない)

■第6回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、して、見本市。」

日時:2024年1月27-31日 10:00-18:00

会場:せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

内容:①「共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック」②「障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会」③ワークショップ・体験「まざってみる! ?ニューカマーセブン」④「Art for Well-being | 表現とケアとテクノロジーのこれから」⑤「障害と芸術文化のブース」⑥「ニューカマーセブン」⑦「ひだまりのギフト

ト展」⑧「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」⑨「手ではなすおはなしの会」の9つの構成で、展示および関連プログラムを行った。

【内容】

ブース名	実施日	内容	実施主体
1 共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック	2024/1/27	【第1部】①体験の共有②考えるテーブル「仙台市での共に学ぶ場づくり」 【第2部】基調講演とディスカッション	文部科学省委託事業令和5年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」主催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、文部科学省、共催：仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク
2 障害のある人とつくるパフォーミングアーツ研究会	2024/1/28	宮城県内の障害のある人とつくる音楽・演劇・ダンス・人形劇などの活動報告とディスカッション	令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務、令和5年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業
3 ワークショップ・体験「まざってみる！？ニューカマーセブン」	2024/1/28	ニューカマーセブンの出展作品の中からパーツを切り出し、組み合わせる創作ワーク	共催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会
4 Art for Well-being 表現とケアとテクノロジーのこれから	2024/1/30	アート、教育、社会、デザイン、テクノロジーなどを混ぜ合わせたトークイベント	主催：文化庁、一般財団法人たんぽぽの家
5 障害と芸術文化のブース	2024/1/27-31	「新設！宮城の福祉アトリエ」「デジタルアート最前線」「生涯学習と芸術文化」をテーマにした展示	令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務
6 ニューカマーセブン	2024/1/27-31	南東北・北関東ブロック（宮城・山形・福島・茨城・栃木・群馬）の支援センターが各地域の取り組みを発表	令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務
7 ひだまりのギフト展	2024/1/27-31	宮城県内の福祉事業所等でつくられた雑貨やお菓子の販売	令和5年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務
8 としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示	2024/1/27-31	仙台市民図書館とせんだいメディアテークが持つバリアフリー資料の紹介展示	主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク
9 手ではなすおはなしの会	2024/1/27	手話による絵本の読み聞かせ	主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク

【来場者・関連プログラム参加者数】

実施日	来場者数	関連プログラム	プログラム参加者数
2024/1/27	1,076人	令和5年度共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック	のべ191人

2024/1/28	704 人	障害のある人とつくるパフォーマンスアート研究会 ワークショップ・体験「まざってみる！？ニューカマーセブン」	のべ 23 人 のべ 44 人
2024/1/29	509 人	-	-
2024/1/30	713 人	Art for Well-being 表現とケアとテクノロジーのこれから 【トークイベント】アートとウェルビーイング～表現すること、生きること。～	のべ 36 人
2024/1/31	793 人	-	-
6日間の総計(来場者数)			3,796 人

■特記

- 宮城県と仙台市の行政と連携し、特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒、障害福祉施設・各種相談支援センター、図書館・文化施設・生涯学習施設など福祉・文化芸術・生涯学習などの関連機関に、合計約1万枚のチラシを配布したほか、一斉メールやウェブサイト、SNS を通じた広報を行った。
- メディアテークのギャラリーで開催されている宮城県/仙台市の特別支援学級および特別支援学校(高等学園舎)の生徒による「私たちの作品展」や、知的障害児者による作品展「ピュアハーツアート展」と会期を合わせて実施して、来場客の相乗効果を図った。
- ⑤「障害と芸術文化のブース」では、研修に関連して「デジタルアート最前線」をテーマに取り上げ、他にアート活動に新たに取り組む段階が増えているため「新設！宮城の福祉アトリエ」「生涯学習と芸術文化」の2テーマを取り上げた。11 団体の6団体が初出展で、団体間の交流機会にもなった。中には、創作のワークショップを開催した団体もあり、通りがかりの人が参加して、来場者との交流も活発的に行った。
- ④「Art for Well-being」は、2023/10/1 に塩竈市杉村惇美術館で開催した「Art for Well-being 表現とケアとテクノロジーと、東北のこれから」をきっかけにして開催した。

(5)情報収集・発信

* 詳細は別紙4(数値報告)(公開しない)

■周知・広報

- ・相談窓口があることの周知のために、ラジオ・新聞・他印刷物への掲載、研修および展示の広報として福祉事業所へのチラシ送付など、宮城県障害福祉課と協力して行った(平成30年度より継続)。
- ・常勤スタッフが1名増えたため、今年度はとくにInstagramでの発信に力を入れ、ストーリーズ機能などを活用し、日々の活動を定期的に発信、気軽に知ってもらえる工夫をした。
- ・「県政だより」に支援センターの情報が紹介されたことにより、当事者による電話相談、ボランティア活動に関心のある県民からの問い合わせがある。必要な支援や、支援センターの活動への参加を促した。

【広報・情報発信にかかるデータ】

広報	<ウェブ媒体>	投稿数	アクセス数 (2023年4月1日～2024年3月25日)
	・ホームページ(東北) http://soup.ableart.org/	78	40,103
	・ホームページ(法人本部) http://www.ableart.org/index.html	44	14,180
	・ホームページ(みんなでミュージアム) https://minmi.ableart.org/	25	17,236
	・Facebook(東北) https://www.facebook.com/soup.miyagi	244	49,793
	・Instagram(東北) https://www.instagram.com/soup_ableartjapan_miyagi/	58	16,774
	・Facebook(法人本部) https://www.facebook.com/ableartjapan	121	64,588
	<紙媒体>	障害と芸術文化の大見本市チラシ	
	・学校(仙台市管轄)	仙台市特別支援学校・特別支援学級:生徒数 2,716人	
・学校(宮城県管轄)	宮城県特別支援学級:児童・生徒数 2,716人、宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含:生徒数 2,559人		
・福祉、文化、教育関係機関(宮城県)	仙台市内福祉施設 440件、仙台市外福祉施設 295件 (それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み)		
・行政、美術館、図書館等文化施設(仙台市)	仙台市市民センター、区役所 障害高齢課、仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置		

■メディア掲載実績

メディア	障害者芸術活動支援センターの活動全般	みやぎ県政だより(2023/5・6月号、11・12月号、2024/3・4月号)、市政だより2(2023/12,2024/1)、河北新報3(2023/6/8,2023/10/5,2023/10/16,2024/2/5)、三陸新聞1(2023/11/22)、TBC ラジオ(2023/4/8,2024/1/27)、Datefm(2023/7/28,2023/12/29,2024/2/15)
	スウプノアカデミア	市政だより2(2023/12,2024/1)、河北新報2(2023/、2023/10/16,2024/2/5)、「けやき通り通信～目や耳の不自由なかたへの情報紙」(2023/12)、
	障害と芸術文化の大見本市	みやぎ県政だより1(2023/11・12月号)、市政だより1(2024/1)、河北新報1(2024/1/30)
	南東北・北関東広域センター	厚生労働省令和5年度障害者芸術文化活動普及支援事業事例集(2024年4-5月頃に厚生労働省のwebサイト https://arts.mhlw.go.jp/ に掲載予定)
	みんなでミュージアム	ふくしま県博協だより(2023/3/28)、「ネット TAM」コラム(2023/4/17)
	NPO 法人エイブル・アート・ジャパン活動全般	朝日新聞 1(2023/10/28)、業界プレスリリース 3(2023/7/5,10/13,2024/1/26)、「ネット TAM」コラム(2023/9/25)

■関連する講演活動、広報 PR

	内容	実施日	主催者	会場	担当
関連する講演活動、広報 PRなど	「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」兼社会教育関係職員・公民館等職員研修会「みんなで考えよう共生社会ってどういうこと」	2023/07/25	宮城県教育委員会	宮城県庁	柴崎
	仙台市文化芸術推進基本計画策定に向けたワークショップ「みんなで話そう！これからのアート」	2023/08/11	仙台市、仙台市教育委員会	せんだいメディアテーク1階オープンスクエア	柴崎
	仙台市障害者自立支援協議会に訪問、取り組み紹介	2023/8/22 太白区, 8/24 宮城野区, 9/27 若林区, 10/12 青葉区			柴崎、伊藤

第 268 回 仙台ロービジョン勉強会	2023/9/13	アイサポート仙台	福祉プラザ	柴崎
令和5年度現代的課題対応実践研修	2023/11/7,12/5	仙台市生涯学習支援センター	仙台市生涯学習支援センター	柴崎、伊藤
宮城県特別支援学校等PTA連絡協議会	2023/11/14	宮城県特別支援学校等PTA連絡協議会		柴崎
アクセシビリティ研修	2023/11/15,12/7	大和リース株式会社	ランチ仙台、大和リース株式会社	柴崎、高橋
若林区障害者福祉センター研修会、テーマ「障害者の学びの支援推進事業について～支援事例を中心に～」	2023/12/08	若林区障害者福祉センター	若林区障害者福祉センター	伊藤
ユニバーサルデザイン事業の展開実験研修	2023/12/22	仙台市博物館	仙台市博物館	柴崎、高橋
持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業 2023 活動報告会	2023/01/13	仙台市市民文化事業団	仙台フォーラス7階「even」	高橋・柴崎
令和5年度第2回特別支援教育コーディネーター連絡協議会	2023/01/29	仙台市特別支援教育課	オンライン	伊藤
アートリンクの可能性～インクルーシブの視点から文化をつくる	2023/03/17	高松市(令和5年度高松市障がい者アートリンク事業)	高松市・市民交流プラザ	柴崎

■関連する執筆・寄稿活動

	内容	発行日	発行者	執筆者
関連する執筆・寄稿活動	『ネット TAM』アート×福祉～ひろがるアート第 8 回ともにつくる「みんなでミュージアム」	2023/4/17	ネット TAM 運営事務局(トヨタ自動車株式会社、公益社団法人企業メセナ協議会)	原衛、平澤
	『河北新報夕刊』(志民の輪 とびらを開く「視覚障害者の佐藤利枝子さん・厚さん夫妻 音楽は生きる力の源」)	2023/10/16	河北新報	柴崎

	smt シネマ「一本の()から考える 〇〇のこと」	2023/11/24、 2024/3/29	公益財団法人仙台市 市民文化事業団 せ んだいメディアテーク	高橋
	『河北新報夕刊』(志民の輪 とびらを 開く「共生社会コンファレンスから 自 分を整理、悩み共有」)	2024/2/5	河北新報	柴崎
	『ミュージアムの事例ケースから知 る！学ぶ！ 合理的配慮のハンドブック』作成の協 力	2024/3/31	独立行政法人国立美 術館 国立アトリサ ーチセンター	柴崎、 高橋

■関連する調査協力、委員

	内容	依頼者	担当
関連する調査協力	仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会委員	仙台市	柴崎
	学びを通じたみやぎの共生社会推進事業 コンソーシアム委員	宮城県教育委員会	柴崎、伊藤
	DEAI リサーチラボ	独立行政法人国立美術 館国立アトリサーチセ ンター	柴崎、 高橋
	クリエイティブ・リンクワーカー協議会(設立準備会)	NPO 法人むすびえ	柴崎

(6)その他

■宮城県在住の障害者アーティストの、国内外の展示発表・2次利用等の支援に係る取組

<p>展覧会への 出展サ ポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたぼうし音楽祭」(2023/8/5～6、DMG MORI やまと郡山城ホール):フレンズドリーム(仙台市) ・「SENDAI SDGs Week2023」(2023/9/18、ぶらんどーむ一番町商店街アーケード内、2023/9/23～24、勾当台公園いこいの広場):県内アーティスト 10 名 ・「Fujisakiday」作品展示(2023/10/7～8、八木山動物公園、仙台市):本多遼(仙台市)、公募に応募した県内アーティスト ・「みんなの音楽祭 in 松岩公民館」(2023/11/19、松岩公民館):フレンズドリーム(仙台市) ・「福祉と表現と仕事 ART EXHIBITION(2023/12/1～19、仙台フォーラス4階):片寄大介(仙台市)、King K(仙台市)、高野 翼(仙台市)、NPF_hiroyuki(南三陸町) ・「福祉と表現と仕事 SHOP/WORKSHOP」(2023/12/8～10、仙台フォーラス1階):県内4施設のアーティスト 24 人(のぞみ福祉作業所、アート・インクルージョン・ファクトリー、多夢多夢舎中山工房、わらしべ舎羽黒台工房) ・「第6回みて、きいて、してて大見本市」(2024/1/27～31、せんだいメディアテーク1階オープンスクエア):邦助(柴田町)、くりこま「ゆめ工房」(栗原市)、佐藤瑠乃助(仙台市)、清宮玲(仙台市)、仙台みらい高等学園文化部(仙台市)、高橋博行(南三陸町)、松本理沙(仙台市) ・「MHD スカラシップ 報告展示会」(2024/1/15～31、東京および仙台):奏(仙台市)
<p>2 次利 用・商談 仲介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社藤崎の中元のカatalogに作品採用:北村絵里(多夢多夢舎中山工房、仙台市) ・株式会社ハーバー研究所「ハーバーの美容手帖」2024 年ホロスコープ(12 星座)描き下ろしに採用:清水敬太(アート・インクルージョン、仙台市) ・NHK E テレ「no art,no life」7 月 23 日(日) 松浦繁(仙台市)、8 月 20 日(日) 首藤和子(のぞみ福祉作業所、南三陸町) ・トヨタ自動車「C*Pod カーラッピング」:清水敬太(アート・インクルージョン、仙台市) ・「令和 5 年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務」バーチャルギャラリー(9/18～12/28、オンライン):県内アーティスト 10 名 ・「Fujisakiday」タイトルロゴ、ポスター、他に作品採用:本多遼(仙台市) ・宮城県社会参加推進センター「全国障害者スポーツ大会」宮城選手団の手旗に多夢多夢舎中山工房(仙台市)製作の手ぬぐいを使用 ・仙台市「障害理解啓発に関する広報業務」のウェブサイト作品採用:竹内 聖太郎(多夢多夢舎中山工房、仙台市) ・「県民ロビーコンサート」(宮城県)のノベルティに作品採用:片寄大介、竹内 聖太郎(多夢多夢舎中山工房、仙台市)



▲ 福祉と表現と仕事 ART EXHIBITION



▲ 藤崎、中元カatalog



▲ 「県民ロビーコンサート」ノベルティ

■商品販売:開催日数と売上(概算)

- ・Fujisakiday「社のマルシェ in 八木山だズー!」:2日間で約18万
(主催:株式会社藤崎、会場:八木山動物公園フジサキの社)
- ・せんだいクラシックフェスティバル 2023「ハチブオンパ」:3日間で約54万
(事務局:公益財団法人仙台市市民文化事業団、会場:日立システムズホール仙台)
- ・第3回パフォーマンスフェスティバル:2日間で約11万
(主催:公益財団法人仙台市市民文化事業団)
- ・福祉と表現と仕事 SHOP/WORKSHOP:3日間で約26万
(県内の福祉施設4団体と協働して仙台フォーラスの1階で開催)
- ・第6回障害と芸術文化の見本「ひだまりのギフト展」:5日間で約61万
(主催:特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、会場:せんだいメディアテーク)



▲ Fujisakiday
「社のマルシェ in 八木山だズー!」



▲ せんだいクラシックフェスティバル
「ハチブオンパ」



▲ 仙台フォーラス
「福祉と表現と仕事 SHOP/WORKSHOP」



▲ 第6回障害と芸術文化の見本
「ひだまりのギフト展」

■アトリエつくるて&みんなでつくるよ広場の人形劇!(2023年度持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業)

主催:特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 助成:公益財団法人仙台市市民文化事業団
* 詳細は別紙4(数値報告)(公開しない)

■文部科学省委託事業 令和5年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

主催:特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、文部科学省
共催:仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク(公益財団法人仙台市市民文化事業団)
* 詳細は別紙4(数値報告)(公開しない)
* 詳細は別紙5(生涯学習事業について)

4 事業実施に係る反省点、今後の課題

(1)宮城県文化芸術振興ビジョンによる「文化芸術活動」の意義の理解促進(再掲/R3-)

宮城県においては、文化芸術活動は才能ある人の、高尚な活動というイメージがまだまだ強い。第3期宮城県文化芸術振興ビジョンに示された視点(以下、抜粋)を支援センターが行う事業にも活かしながら、これまで活動に参画してこなかった障害者や支援者、福祉事業者等へのアプローチとしたい。

- 文化芸術は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる横路美をもたらし、豊かな人間性を養い、想像力や感性を育むなど、人が人らしく生きるための糧となるものです。
- 文化芸術が生み出すコミュニケーションは、人と人を結びつけ、相互に理解し、尊重し合う土壌を提供するものであり、人々が協働し、共生する地域社会の基盤となるものです。
- 文化芸術が新たな需要や高い付加価値を生み出し、多くの産業の発展を担う側面を持っているとともに、地域経済の発展に寄与する可能性を持っています。
- 文化芸術の交流を通じて、国内外の地域と互いの文化芸術を理解し、尊重し、多様性を、認め合うことは、平和の礎となり、相互理解の促進や地域の活性化につながるものです。

(2)空白地域の解消・支援者側の視点の転換に向けた活動の必要性(再掲/R2-/一部変更)

令和5年度は、これまで未着手であった「広域大崎圏」「気仙沼圏」で、伴走型の SOUP の研修に取り組みることができた。来年度も引き続き、芸術文化分野(消費・生活文化課)および生涯学習分野(生涯学習課)からのアプローチも含めて、障害者の芸術文化活動の推進をはかりたい。

(再掲)大分県などでは、行政などが主催する障害者の権利擁護をテーマとした研修会、相談支援専門員の勉強会、各福祉事業所のサービス管理責任者の情報交換会などで、障害者の芸術活動支援センターの活動が紹介され、より多くの当事者や家族に情報が提供されている。宮城県との協議をすすめ、本支援センターの周知にかかる協力をお願いしたい。

(3)福祉・文化・教育・労働 分野を超えた有機的な連携へ(再掲/R4-/一部変更)

支援センターの相談から、引きこもり状態から脱却した人(精神障害者)がいた。また、相談支援員の紹介から企業就労者(障害者)が生涯学習のプログラムに参加し、のちに芸術文化活動への参加の機会を得たなどの事例もあった。

福祉・文化・教育・労働など、官民ともにさまざまな機関が連携することで、孤立した人や、仲間づくりの機会が少ない障害者が、社会参加し生き生きと活動する事例をみていると、この支援センターの役割を自覚することができる。令和5年度はさらに、生涯学習からのアプローチとして社会教育施設や社会教育主事の職員、支援学校教員との活動が活発化した。宮城県全域の障害者の芸術活動に関わるネットワークハブとこれを共有し、実践活動をさらに促進する。

(4)支援センターの事業拡充(新規/R6-)

令和5-9年度の第2期「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」にのっとり、改めて今の時代および宮城県に必要な支援センターの像を模索し、不足している政策・活動を補強する。そのために、障害福祉課を通じて関係する班や課との情報効果や連携を図る。

- 宮城県の作家と作品のデータベース化
- アート&デザイン分野における実践と権利擁護の強化
- インクルーシブな文化芸術活動の環境形成

5 事業の収支精算書

* 別紙6(公開しない)